



レコードをハイレゾ音源化

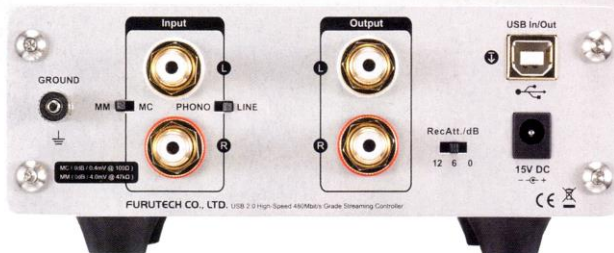
ADLより、さらなる進化を遂げた フォノイコ内蔵USB DACが登場

ADL(フルテック)ブランドから、ハイレゾ再生とアナログ再生の楽しみを高次元のクオリティで実現してくれる画期的なフォノイコライザー内蔵USB DACが登場した。本機は、従来モデル「GT40」で実現した 高いコストパフォーマンスはそのままに、さらなる進化を遂げたモデル。新たに192kHz / 24bitのハイレゾ再生に対応するだけでなく、さらにLTPなどのアナログ音源も192kHz / 24bitでデジタルアーカイブ化できるADCも搭載している。同じく進化したヘッドフォンや、フルテックの新型USBケーブルとともに新世代のアイテムの魅力を角田郁雄氏が徹底分析。アナログ音源のハイレゾ化も体験している。ぜひともお楽しみいただきたい。



Text by **角田郁雄**
Ikuro Tsunoda

ハイレゾの先駆者であり、アナログ等のパッケージメディアも愛する筆者が、本機の実力を①USB DACの性能、②フォノイコの性能、③アナログ音源のハイレゾ化等から多角的にチェックしている



本機のリア部。USB (B端子) 入力のほか、フォノ / ライン切り替えのアナログ (RCA) 入力が 1 系統、出力はアナログ (RCA) が 1 系統と、フロントパネルにヘッドホン出力を 1 系統装備。電源は 5V DC の USB / バスパワーによる電源供給 (USB チップのみ独立給電) と外部 AC / DC スイッチングアダプター (15V / 0.8A / 12W) による給電の 2 種類に対応

ADL GT40α

フォノイコライザー内蔵USB DAC

¥46,000

※低ジッター・クロックリカバリシステム、アシンクロナスモード (非同期型) / ASIO 対応

●形式: USB & アナログ入出力対応オーディオインターフェース ●サンプリング周波数: オーディオアプリケーションソフトに依存 USB 入力時=再生 24bit/192kHz (Max)、録音 24bit/192kHz (Max) 16/24bit、44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz 対応 ●周波数特性: 20Hz~20kHz (±0.5 dB) ●SN 比: -90 dB (A-wtd) / ライン出力 ●ライン出力レベル: 5Vrms (THD < 1%) ●ライン出力インピーダンス: 100 Ω ●ライン入力レベル: MC 0.4mV / MM 4.0mV / Line 2Vrms ●ヘッドホン出力レベル: 1% THD (全高調波ひずみ) 1kHz: Max 94mW (16 Ω)、110mW (32 Ω)、98.6mW (56 Ω)、23mW (300 Ω) ●電源: 外部 AC アダプターによる給電 15V / 0.8A / 12W ●サイズ: 150W × 111D × 57Hmm ●質量: 約 650 g / 本体

レコード愛好にも薦めたい フォノイコ搭載USB DAC

ハイレゾ再生が盛んになり、SACDやLP再生とともにハイレゾ・ダウンロードメディアとパッケージメディアの両方が楽しめる時代となった。同時にスタジオでしか聴けなかったハイレゾ音源が身近なものとなり、再生だけではなく、録音してみようという愛好家も増えてきた。

つまり、普段、レコードを再生する愛好家も、レコードをデジタル化し、ハイレゾ・アーカイブを作った楽しむことがやり出したのである。ここで必要となるのは、フォノイコライザーとADCコンバーターを内蔵するUSB DACである。パソコンを使ってハイレゾのUSB再生ができ、さらにレコードのデジタル化もできることは、理想的である。

再生/録音フォーマットともに 192/24対応への拡張を実現

フルテックはADLブランドとしてGT40でこの理想を実現したが、さらに今回は、録音再生フォーマットを192kHz/24bitに拡張したGT40aを新発売した。

本機はコンパクトながら、実に多機能。フロントのUSB/ANALOGスイッチで、パソコンのUSB再生とRCAアナログ再生が切換えられ、リアのRCAアナログ入力モードスイッチで、アナログライン入力とフォノイコライザー入力が切換えられる。フォノイコラ

イザーを選択した場合は、MC/Mの切換えも可能だ。

また、手持ちのフォノイコライザー(アナログ入力設定)や、本機のフォノイコライザーの録音レベルが調整できるように12、6、0dBの3段階のアッテネーター(録音レベルを抑える)機能も新たに装備され、入力がオーバーとならないように、クリップ信号のLED表示(レベルオーバーのLED)も付属した。

従来機と同様にフロントにパワースピーカーと接続し、プリアンプとしても使えるようにボリュームを備え、さらに300Ωというハイインピーダンスヘッドフォンまでドライブできるヘッドフォンアンプも搭載している。

① USB DACとしての性能 ハイレゾを鮮やかに再現 鮮度の高い倍音表現が特徴

私は実のところ、昨年からレコードのハイレゾ化を行なっていて、本機には興味津々であった。まず本機の音質を確認するために、愛用のMacBook Proを接続し、ハイレゾのUSB再生を試した。その音は、小型サイズながらレンジ感があり、色づけの少ない、ハイレゾ音源の音をストレートに表す、鮮度の高い音質が特徴である。従ってハイレゾ音源の倍音を鮮やかに描いてくれるところに本機の音の良さを実感できた。色づけが少ないということは、カートリッジの音が反映されるという意味においても大切なことで

ある。

■新製品のUSBケーブルを試す

α導体と純銀のハイブリッド 高い空間性と解像度を引き出す

途中からは、フルテックブランドから登場した新製品のUSBケーブルGT2PROに変更した。同ケーブルは新たにαOC線材に純銀を混入し、三重シールドを施したものであるが、高い空間性と解像度が得られた。同社はUSBケーブルの発売以来、伝送特性の指標となるアイパターンを重要視してきたが、まさにオーディオグレードの2・0ハイスピード伝送の特性を生かしたUSBケーブルと言えるであろう。

■新製品のヘッドフォンを試す

■新製品のヘッドフォンを試す 耳にジャストフィットし かなり高い解像度を再現

レコードのハイレゾ化をする前に、ADLの密閉型ヘッドフォンのニューモデル、ADKH128も聴いてみた。本機も非常に、色付けが少なく、かなり解像度の高い音質が特徴で、音量を上げてハウジング振動のないリアルな音を聴かせてくれる。これは耳にジャストフィットする卵の殻形状のAlpha Trio Earcupsの効果である。

② フォノイコライザーの性能

フォノイコライザーとしては HS/Nで解像度の高い再現性

さて、ここからは、アナログのハイレゾ化を紹介する。レコードプレ

イヤーはSMEのシリーズVにライラのATLASカートリッジを装着したトランスローターのロンディノである。GT40aのフォノイコライザーをMCに設定し、MacとUSBで接続。Macの録音アプリにはVinyl Studio(ウィンドウズにも対応)を使用した。

まずハイレゾ化する前に本機をフォノイコライザーとして試聴した。アルバムはBlue Noteのソニー・クラーク/クール・ストラッキンだ。その音は、カートリッジの音質をダイレクトに伝送し、HS/Nで、空間性を含めた解像度の高さが特徴だ。ゆえにタイトな音質が聴け、トランペットやテナーサックスの響きは鮮やかで倍音の再現性が高い。ベースやドラムでは十分な中低域の量感を再現する。

③ アナログ音源をハイレゾ化 レコードの音質をそのまま再現 ハイレゾとアナログの比較も可能

次に192kHz/24bitハイレゾ録音をしたファイルで、本機をUSB DACとして再生したが、フォノイコライザーとしてレコードを再生した音をスケールダウンせず、そのままの音質で再現できたことに感激した。ちなみに、録音を完了し、もう一度、レコード再生し、同時にハイレゾ化したファイルのUSB再生も行ない、フロントのUSB/ANALOGスイッチを切り替えると音質の差が確認できる。本機はレコードのハイレゾ録音が楽しめる本格的なUSB DACと言えるであろう。



ADL H128

ヘッドフォン ¥OPEN(市場予想価格¥40,000前後)

※カラーはBR(ブラウン)、BK(ブラック)、NV(ネイビー)の3色を用意

●形式: 密閉ダイナミック型 ●ドライバー: 口径 40mm 特殊高性能マグネット ●出力音圧レベル(1kHz): 98dB SPL/mW ●再生周波数帯域: 20Hz~20kHz ●最大許容入力: 200mW ●インピーダンス(1kHz): 68Ω ●イヤープッド素材: 合皮 ●測圧: 約 4.5N ●コネクタ: 非磁性ロジウムメッキ仕様のα(Alpha) mini-XLR ●コード: 片出し 3.0m ストレート(着脱式) ●質量: ヘッドフォンのみ: 約 280g/ ケーブル含む: 約 320g ●同社オリジナルの 3.5mm → 6.3mm 変換プラグ F63-S(G)と、交換用ケーブル iHP-35X 1.3M を標準付属している



FURUTECH GT2Pro

USB(2.0)ケーブル

A to B タイプ=¥13,500(0.3m)

A to miniB タイプ=¥15,000(0.3m)

※その他 0.6m、1.2m、1.8m、3.6m、5m がラインアップ